

(様式1)

(成果情報名) 近江牛の雌牛への生米ヌカ利用			
[要約] 近江牛の雌牛肥育において、 <u>生米ヌカ</u> は発育と枝肉成績に影響なく濃厚飼料中に <u>10%</u> 使用でき、飼料経費を抑えたうえで飼料自給率を向上させることができる。また、牛肉中の <u>ビタミンE</u> 含量が増加する。			
畜産技術振興センター 近江牛生産技術担当		[実施期間] 平成24年度～平成26年度	
[部会] 畜産	[分野] 需要に応える農畜産物づくり	[予算区分] 県単	[成果分類] 指導

[背景・ねらい]

近年の輸入飼料価格の高騰は輸入飼料に依存した畜産経営を圧迫しており、飼料自給率の向上は畜産経営において重要な課題である。一方、本県は水田率が92.3%と高く、飼料の地産地消を推進するには水稻の活用は有効と考えられる。本試験では近江牛の雌牛の飼料に県内産の食用米から発生する生米ヌカを取り入れた肥育体系を開発し、飼料自給率の向上と近江牛ブランドの生産基盤の強化充実を図る。

[成果の内容・特徴]

- ①近江牛の雌牛肥育において、濃厚飼料中に生米ヌカを10%配合しても発育と枝肉成績に影響はない(図1、2、表1)。
- ②生米ヌカの給与により皮下脂肪のステアリン酸割合が増加し、一価不飽和脂肪酸割合が低下する。また、ミリスチン酸も増加する傾向がある(図3)。
- ③生米ヌカの給与はビタミンE含量を増加させる。(図4)。
- ④飼料経費は3.2円/kg低下し、飼料自給率は約10%(TDNベース)向上する。

[成果の活用面・留意点]

- ①県内で生産された生米ヌカを入手し、農場で近江牛の雌牛の配合飼料に混合することで給与できる。
- ②生米ヌカの給与は雌牛では皮下脂肪の一価不飽和脂肪酸割合を低下させる。
- ③去勢牛への給与は尿石症の要因となるため、給与量と給与期間を限定する必要がある。
- ④生米ヌカは梅雨や夏季などの高温季には、害虫が発生するため、精米後、20日以内に給与するか、低温庫で保管する必要がある。

[具体的データ]

図1 体重の推移

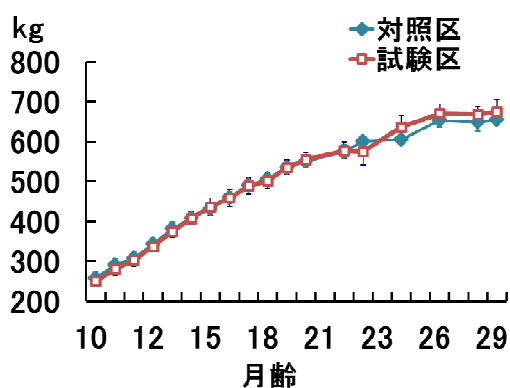


図2 飼料摂取量推移

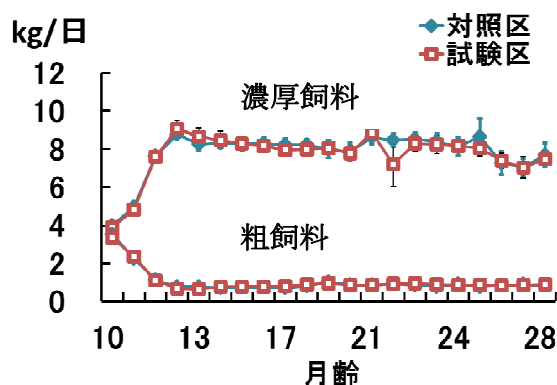


表1 枝肉成績

区分	枝肉重量 (kg)	歩留等級				肉質等級	
		ロース芯面積 (cm ²)	バラ厚 (cm)	皮下脂肪厚 (cm)	歩留基準値 (%)	BMS No.	BCS No.
対照区 平均値	444.3	52.4	8.1	3.7	72.8	5.0	4.2
対照区 標準誤差	14.5	4.5	0.2	0.2	0.6	0.5	0.2
試験区 平均値	465.0	58.3	7.6	3.6	73.0	4.8	4.0
試験区 標準誤差	29.3	6.2	0.3	0.1	0.7	1.0	0.0

図3 皮下脂肪の脂肪酸組成

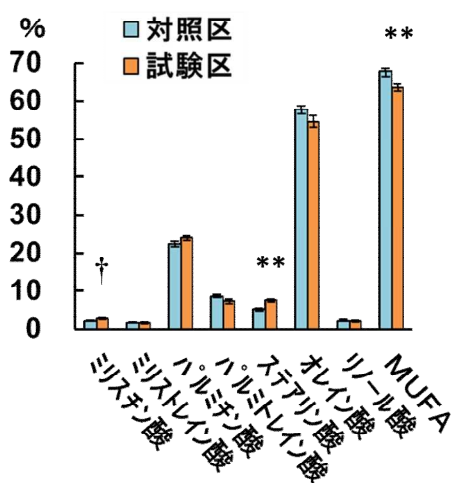
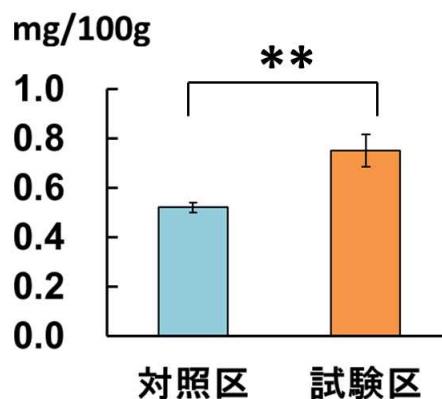


図4 胸最長筋中のビタミンE含量



各図表の数値は平均値±標準誤差。 †:P<0.1, **:P<0.01

[その他]

・研究課題名

大課題名：需要に応える農畜産物づくりに関する研究

中課題名：近江牛等の生産振興

小課題名：水田由来の自給飼料資源の利用による飼料調製・給与技術の体系化

・研究担当者名：北川貴志 (H24~H26)

・その他特記事項：政策的試験研究課題(畜産課)「水田由来の自給飼料資源の利用による飼料調整・給与技術の体系化」